

## 佐渡地域現地審査報告書

成田 賢・大嶋利幸、蓮岡 真

期間：平成 25 年 7 月 31 日～8 月 1 日

主な参加者（所属）

甲斐元也（佐渡ジオパーク推進協議会会長・佐渡市長）、渡邊剛忠（同副会長・佐渡学センター所長）、佐藤 隆（同副会長・新潟県佐渡地域振興局長）、小林巖雄（同委員・調査研究部会長・新潟大学名誉教授）、小林祐玄（同委員・佐渡市教育委員会教育長）、羽生令吉（同委員・財団法人佐渡博物館学芸員）、若林篤男（佐渡市世界遺産推進課・主任）、山本雅明（同市生物多様性推進室・室長）、岩立 恒（佐渡ジオパークガイド協会会長）、松崎文昭（同副会長）、山口佳代（同会員）、小澤三四郎（同会員）、高藤市郎兵衛（同会員）、渡邊道夫（同会員・トキガイド）、奥山由羽（小木中学校 3 年・宿根木ガイド部長）、佐藤佑里菜（同校 3 年・同部員）、仲川愛菜（同校 3 年・同部員）、石川喜美子（株式会社ゴールデンデン佐渡）、佐藤洋子（美佐渡会・相川やまき女将）、深野聖子（同会・ホテル吾妻女将）、小林泰英（佐渡ジオパーク推進協議会事務局長・佐渡市教育委員会社会教育課長）、野口敏樹（同事務局・同課ジオパーク推進室・室長）、宇治美德（同事務局・同室主任）、丹穂亮太（同事務局・同室主事）、市橋弥生（同事務局・同室学芸員・主事）、神蔵勝明（同事務局・同室推進指導員）、池田雄彦（同事務局・同課佐渡学センター・情報指導員）

見学地点

両津郷土博物館、国中平野、佐渡博物館、トキふれあいプラザ、大須鼻活断層、元小木枕状溶岩、宿根木、佐渡金銀山ほか

現地審査のまとめ

## 1) ジオパークの名称とテーマ

全体のテーマは、佐渡のジオがよく表現されており、それぞれの時代の状況を見学できるジオサイトが揃っている。また、佐渡島の形成のみならず、日本海の形成も含め、多様性を持ったジオが存在しており、各ジオサイトを構成するジオポイントもテーマと連動したものになっている。しかし、テーマは地学的な要素が強く、一般の人にとっては入りづらい感が否めない。地域の個性がうまく表現されていない印象であり、メッセージ性も弱く、専門家が説明しなければ伝わらない可能性が高い。このテーマはサブテーマ的な感があり、「金山」（日本海形成期の火成活動）と「トキ」（300 万年から孤島環境と独自の生態系との関係など）をメインに持ってきて、そこから各ジオサイトへつなげていくストーリーの方が分かりやすい印象を持った。

## 2) ジオサイトと保全

小木地震（1802 年）における隆起地形など、自然災害と産業との関連付けはよくできている。各ジオサイトとも恵みと災いの観点について意識的にとらえられており、佐渡の歴史（金山開発との関連）、生態系（トキを中心に）、北回り船との関係についてのストーリーは大変魅力的である。地球や日本全体と関連付けたストーリーは今後の課題である。また、科学的・教育的に重要なジオサイトが多数存在しており、科学的な裏付けに注力されている。そのほか、住民・企業やガイドとの協働によるジオサイトのメンテナンス活動と

して、一部のジオサイトで草刈りが行われているなど、保全に関する活動に地元も積極的に協力している。

### 3) 教育・研究活動

佐渡市内には、大学等の研究機関が複数設置されているほか、新潟大学などと包括連携協定を結ぶなど、ジオパーク推進のサポート体制が確立している。また、ジオパーク研究協力校を設けて、ジオサイトを題材に野外活動を取り入れた学習が推進されているなど、この分野における取組は他の分野に比べて進んでいる。また、学術研究成果が、ジオパーク解説書「佐渡島の自然(地学編)」としてまとめられており、広く配布予定とのことであるが、ジオパークの教材やガイドブックとして、ガイドや一般の方が読むには難しすぎる内容であり、学術的な方向に偏り過ぎている感がある。

### 4) 管理組織・運営体制

佐渡ジオパーク推進協議会には、4つの専門部会が置かれ、市教育委員会が事務局を担当している。研究者や専門家の関与が十分になされており、ガイド教育への参画も積極的である。佐渡金銀山の世界文化遺産登録や世界農業遺産との連携が図られているものの、より一層、三者が一体となった取組が期待される。また、アクションプランが策定されているが、現時点ではこれらの裏付けとなる財政計画が示されていないため、早急な策定が必要である。ウェブサイトは、佐渡市ホームページの中に関連サイトがあるものの、訪問者を意識したものになっておらず、今後早急に対応すべき課題である。また、港や空港など、佐渡島の玄関口においてジオパーク情報が手軽に入手でき、円滑にジオサイトを回れるような案内システムの整備が急がれる。

### 5) 地域の持続的な発展とジオツーリズム、ガイド養成

ジオパーク認定ガイドは21人が誕生し、一定の水準が確保されているが、案内の際には専門用語が頻繁に使われていることから、やさしい言葉で伝えることが望まれる。また、小木半島ジオサイトでは、小木中学校3年生がボランティアガイドとして活躍しており、地域に根差した活動として評価できる。拠点施設については、博物館の統廃合計画と合わせた整備が検討されている。解説板やパンフレットの整備はこれからの課題であり、分かりやすいものを計画的に整備する必要がある。

### 6) 国際対応

トキの森公園では、英語・中国語・韓国語のパンフレットが用意されているが、そのほかは、解説板、印刷物等についての国際対応はほとんどされていない。海外からの来訪者も多くあることから、今後対応すべき課題である。

### 7) 防災・安全

小木半島ジオサイトでは、最初にジオパークガイドが危険事項をアナウンスしていたほか、小木地震による隆起現象を説明するなど、防災に役立つ説明が行われていた。引き続き、各ジオサイトにおいて防災・安全対策を進めるとともに、緊急時における来訪者への情報提供や避難ルート等について検討しておく必要がある。あわせて、地震、津波などに対応したガイドへの研修を進める必要がある。